

地方創生産業委員会と富山大学芸術文化学部生との意見交換会報告

地方創生産業委員会では、「富山県のデザイン×観光」をテーマに、以下のとおり、富山大学芸術文化学部生の皆さんの生の声をお聴きする意見交換会を開催しました。

1 開催日

令和5年12月21日（木）午後1時00分～2時30分

2 場所

富山大学高岡キャンパス
「軽金属材料共同研究棟」1階セミナー室



3 参加者

県議会側

地方創生産業委員長	針山	健史
〃 副委員長	瀧田	孝吉
〃 委員	嶋川	武秀
〃 委員	井上	学

大学側

富山大学芸術文化学部生 12名



4 テーマ

富山県のデザイン×観光

5 意見

(1) 富山大学芸術文化学部を選んだ理由

- ・もともと地域に関することを学びたいと思っており、あらゆる視点から地域を見ることが出来る芸術文化学部を選んだ。また、伝統文化や歴史のある地域がいいと思っており、調べているうちに高岡にひかれた。
- ・まちづくりとデザインに興味があったが、デザインができる自信がなかった。しかし、芸術文化学部ならもう一つのまちづくりについても勉強ができる。
- ・地域とデザイン、2つのことを学びたいという気持ちがあり、両方について幅広く学んだ上で、自分のやりたいことを選択できる芸術文化学部が非常に魅力的だった。
- ・芸術の勉強がしたいとは思っていたが、デザインをやりたいのかものづくりをしたいのかが定まっていなかった。その点、芸術文化学部は、最初の1年半でいろいろなこと

を学び、それから自分がやりたいことを絞ることができる。

- ・ものづくりをしたいという漠然とした思いはあったが、はっきりとした道は決まっていなかった。富山大学は学部も多彩で、コース配属前にいろいろな授業を受けて、いろいろな人とも交流できるため、自分のやりたいことを見つけられると考えた。
- ・もともとプロダクトデザインをしたかったが、デザインの学校というと、自分のコース以外の人と関わりがない学校が多い。しかし富山大学は、1年生であれば他の学部と関わることもでき、いろいろな価値観や視点を知った上でものに関わることができる。
- ・富山から出たいと思っていたが、オープンキャンパスやパンフレットをきっかけに、ここに入学すれば面白いことができるのではないかと思った。
- ・国立で特殊な学部がいいと思った。
- ・富山県出身で、高校ではデザインの勉強をしており、大学でも地元で勉強したいと思っていた。もともと建築士を目指していたこともあった。
- ・高校は美術科だったが、作家になるというイメージがあまりなかった。働くことや人と関わることも学んだ上で将来を決めたいと思った。
- ・大学選びでは、国公立かどうか、就職率が高いかを重視していて、その点で富山大学がいいなと思っていた。そして、芸術文化学部では1年生から実践的な授業を受けることができ、とても魅力を感じた。
- ・デザイン志望だが、絵ではなく工作のほうが得意だった。富山大学芸術文化学部の入試はデッサン必須ではなく、小論文かデッサンを選ぶことができた。また、大学生の間に留学したいと思っていたおり、芸術に根差した留学提携校を持つ芸術文化学部の魅力を感じた。
- ・地元からアクセスもよく、すぐ来ることができる（複数意見）。
- ・親族も富山県や近県に進学していた（複数意見）。

<学生自由意見>

- ・富山は刺激が少ないと思っていたが、芸術文化学部に入學してからは見方が変わり、富山も面白いと感じるようになってきた。
- ・富山の、人のつながりが強く感じられるところが好き。プロジェクト授業で知り合った職人さんともつながりが続いている。

<委員自由意見>

- ・地域と連携した実践的なプロジェクト授業が受けられることは非常に面白い。

(2) 芸術文化学部で学んだことと、将来の展望

- ・授業で地域に出て、リアルな声を聞く経験をし、得られた知見はとても大きい。また、芸術文化学部は突き詰めようと思えば何でもできる学部で、忍耐力も身についた。
- ・授業でいろいろな施設に行き、運営側のお話を聞く機会も多かった。そこで聞いた苦労や成果の話をきっかけに、自分の仕事で誰かを喜ばせたいと思い、就職先を決めた。
- ・学内に県外出身者が多く、県外出身者の話から富山の面白さに気付いたことや、授業で地域に出て地域の人と話をしてみても面白かったことから、地元の新聞社に入って地域で取材をすることに興味を持っている。
- ・まちづくりの授業はグループで取り組むことが多く、人と一緒に目標に向かって頑張ることを実践で学んだ。育ったまちへの気持ちが強いので、地元で就職し、自分が学んだことを地元に戻元したいと思っている。
- ・デザインというのは、自分がやりたいことではなくて、その人のために思ってやるものだと言った。
- ・富山県の地域性が好きなことや、大学生活の中でこれからも関わっていきたいと思える人と出会ったことから、富山県に残りたいという思いが強いが、自分の夢が叶えられるプロダクト関係の会社が富山にはないため、富山県から出て自分がやりたいことができる企業に行きたいという気持ちと葛藤している。
- ・デザインについて学ぶうちに、実際にデザインするよりも、誰に向けたデザインなのか、何を伝えたいのかなどを考える過程が好きだと気付いた。
- ・田舎に住みたい気持ちはあるが、やりたい仕事や自分の成長を考えると、二十代後半ぐらいまではそれができる関東圏で働いて、それ以降は地元か富山でも働けたらいいと思っている。
- ・県外で就職することを考えているが、富山のことはとても好き。学生時代をこの地で過ごすことができ、よかった。
- ・芸術文化学部で学んだことは、デザイン一つで人の意識が変わり、その意識が社会を変えること。将来は海外で働き、世界的に、自分が出したもので笑顔になってもらえたらいいと思っている。また、富山に来て自然に目を向けられるようになったことがとても

もプラスになった。

<学生自由意見>

- ・行動は、質もだが量が非常に大切だと思っている。芸術文化学部ならではのプロジェクト授業もよい経験で、現在参加している長期インターンシップは高岡だからできたことで、ここへ来てよかった。
- ・(奨学金返還助成制度登録企業と、行きたい企業のどちらを選ぶかという委員の質問に対して) 自分に行きたい企業を選ぶが、そういった制度は非常に魅力的である。
- ・(同じ質問に対して) 条件による。富山県に住民票があるかどうかなどのルールがあると思うが、住民票を地元に残している学生もいる。助成条件が学生にとってやさしめであれば、候補の一つになると思う。

(3) 富山県の観光の魅力アップのために、デザインをどう取り入れるか

- ・北陸の中でも、富山県は石川県、福井県と何が違うのか、より差別化できたらいい。
- ・立山といった有名な場所以外の観光地は、自分でかなり探さなければならない。富山県に住んでいなければわからない名所が多い。もっとわかりやすくすると発展するのではないか。
- ・富山県は、魅力的な場所はあるが観光地どうしのアクセスが悪く、統一感がない。観光地どうしをつなぐ特徴ある乗り物などの取組ができるとよい。
- ・地元ならばICカードをどの交通機関でも利用できたが、富山県はICカードが使えないことが多い。使えるかどうかによりわかりやすくなれば、観光としても生活としても、移動がしやすくなると思う。
- ・地元の人が案内してくれ、一緒に楽しむことができるアートがあればよい。また、自然が富山の魅力だと思うので、それを生かしたものがあれば多くの人に来てくれるのではないか。
- ・発信力が必要。現状はお祭りの情報も地元地域以外には伝わっていない。芸術文化学部ではデザインを通して発信することも学んでいるので、デザインを学ぶ人たちが活躍できる場を県内につくってもらえれば、デザイン力を生かして発信することができると思う。
- ・富山県は何もないと言う地元の人もあるが、国宝をはじめたくさんの観光地があり、ちゃんと観光として1日中楽しむことができる。例えばプランを立てて発信するなど

できればよい。

- ・観光パンフレットに出てくる人はおじさんばかり。登山や自然、日本酒が好きな若い女性もいるので、もう少しターゲットを広くすればいいと思う。
- ・市内電車の駅が、本当に市電の駅なのかそれともバス停なのか、サインデザインがわかりにくい。また、富山県への旅行の動機としてホームページやSNSが多かったので、より若者向けに発信したらどうか。
- ・若者は夜行バスを使う。早朝に空いている店や一人で行きやすい店の紹介があるとうれしい。
- ・一過性ではなく、長期にわたってわかるよさが、他の県にはないところ。表層的な観光ではなく、地域づくりから観光へ広げるという発想に近いが、県民が集える場所があればいい。例えばハンドメイドや手作りの店、ウッディーな喫茶店などが商店街に並んでいるなど、県民に愛され人が集まっているホットな場所があれば、長期滞在しなくとも富山の雰囲気やよさがわかり、移住する人も増えるのでは。
- ・自分の地元や自分にはないものを探し求めるのが観光だと考えており、富山には体験価値にお金を払う人が多いと思う。体験することで何が得られるかを発信すれば、より魅力的に感じてもらえるのではないかと。そして、富山は車がないとどこにも行けない。歩く距離が長いというマイナスをプラスにできる、また雨でも楽しめるような何かがあればいいと思う。

<委員自由意見>

- ・富山県は高低差4,000メートルの地形をしており、それを生かした観光ができていない。また、ICカードの問題や、観光地どうしの横のつながりがない上に、若い女性が進学や就職を機に県外へ行ってしまうことが課題となっている。これから改善していかなければならないことだが、皆さんも何かいいアイデアがあれば教えていただきたい。
- ・公共交通での移動にストレスがあるという意見が複数あった。これをストレスフリーにして、また富山に来たいと思ってもらえるように頑張りたい。皆さんには、県外に就職してもぜひ、富山県と関係を持って活動してもらいたい。
- ・富山県は不便な点も多くあるが、楽しく充実した学生生活を送ってもらっていることがわかり、富山県に携わる者として喜ばしい。これからも富山県をよくしていくために尽力したい。
- ・本日の意見交換を通して、富山県はいいところだと改めて思ったが、素材だけに頼ってしまっている。皆さんとの意見交換会で見た課題を克服し、引き続き富山県に住み、学んで、働きたいと思ってもらえるような環境をつくっていききたい。